



令和4年度第1回 刈谷市国際化・多文化共生推進委員会
議事録

■ 日 時 : 令和4年10月26日(水) 13:30~15:10

■ 場 所 : 刈谷市役所3階301会議室

■ 出席者

所 属	氏 名
愛知淑徳大学 名誉教授	榎 田 勝 利
国立大学法人愛知教育大学 国際企画課	高 木 遠 慧
刈谷市教育委員会 学校教育課	屋 敷 大 喜
愛知県国際交流協会 交流共生課	林 一 也
刈谷市国際交流協会	西 村 日出幸
株式会社デンソー 総務部刈谷総務人事室	渡 合 史 善
認定特定非営利活動法人 アジア車いす交流センター	木 村 隆 彦
S B K	川 口 ビバリ
市民委員	ファム ティ ホン トウイ
刈谷市 市民活動部 部長	近 藤 和 弘

■ 欠席者

一ツ木自治会	及 川 啓 太
株式会社ベルテック	小 池 ソニア

■ 事務局

市民活動部 市民協働課長	渡 部 貴美子
市民活動部 市民協働課長補佐兼協働推進係長	小 原 崇 照
市民活動部 市民協働課 協働推進係 主査	眞 野 浩 志
市民活動部 市民協働課 協働推進係 主事	木 下 和 希

NPO 法人 NIED・国際理解教育センター 代表理事	伊 沢 令 子
NPO 法人 NIED・国際理解教育センター 事務局長	川 合 眞 二

■ 配付資料

次第

- 資料 1 刈谷市国際化・多文化共生推進計画 第3期重点協働プロジェクトの進捗状況
- 資料 2 第2次刈谷市国際化・多文化共生推進計画策定の方針
- 資料 3 刈谷市の外国人市民の状況
- 資料 4 各種アンケート調査等の内容

■ 議事録

1. 開会

- ◇ 出欠席者の確認、配付資料の確認
- ◇ 委員の自己紹介、事務局の紹介
- ◇ 委員長の選出：事務局案として榎田委員を推薦し、拍手で承認された。
- ◇ 副委員長の指名：委員長が西村委員を指名し、拍手で承認された。
- ◇ 委員長あいさつ：

ウィークデーの多忙な中で参加いただき感謝する。計画策定から 11 年間関わってきたが、地域だけでなく世界も大きく変わってきている。本委員会は、計画を策定し、その計画を推進するための役割を担っている。計画を進める活動は持続可能でなければならないが、市職員は異動があるし、本委員会の委員も入れ替わっている。幸いにも計画策定時から関わる NIED・国際理解教育センターの 2 人がいて計画が持続的に推進されてきた面もある。本年度の本委員会では、地域をどう多文化共生、国際化推進するのかを考えていくことになる。委員の中には、ベトナム、フィリピン、中国、ブラジルの国の方も参加している。多様な国の方、様々なセクターが連携しながら一緒になって多文化共生が推進されることが大事なことであり、そこに本委員会の意義を感じる。各団体としての意向もあると思うが、是非、各自のご意見を積極的に発言して貢献していただきたい。発言された貴重なご意見を、事務局は真摯に受け、取り扱ってくれるものと思う。

2. 議題

(1) 刈谷市国際化・多文化共生推進計画第3期重点協働プロジェクトの進捗状況について

- ◇ 事務局が、刈谷市国際化・多文化共生推進計画の第3期重点協働プロジェクトとして位置付けている3つの取り組みについて、資料とスライドを使って説明を行った（内容は配付資料1のとおり）。

◇上記説明事項について、以下のとおり質疑応答、意見交換を行った。

委員：E S D推進プロジェクトでグローバル人財として講師を担った。中学校に行ってフィリピンのこと、防災のことを話した。英語の授業だったので、子ども達が英語で、伝えたいことを伝えることができていたし、生徒たちが積極的で、とても楽しかった。

委員：第2期重点協働プロジェクトのワールドデンの課題として外国人の集客が挙げられているが、政府の外国人の受入緩和を受けて、今年度4月からは留学生も受入が始まり、毎回8人～10人が継続してワールドデンに参加している。理由は日本人と交流できることが楽しいからである。

委員長：留学生を呼ぶ時、課題になるのは、交通費や交通手段だが、大学はどうしているか。

委員：刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」を利用している。行き方を覚えた学生の中には、野菜などのお土産があることもあり、自転車で行く者もいる。もらった野菜の料理法を教わって調理したり、逆に自国の料理を日本人に紹介したりしている。

委員：ワールドデンの他地域への展開を小垣江町で始めたとのことだが、小垣江町で始めるにあたり外国人参加者を取り込むための工夫としてどんなことをしているか。

事務局：一ツ木町のワールドデンは愛知教育大学の留学生やフィリピン人コミュニティの方などの参加が継続的に得られている。小垣江町は、畑の場所が定まっていないので、まずは外国人と日本人が交流する機会を作り、地域であいさつできるような間柄を作ることを目的に進めている。その一つが、資料1で説明した多文化イベントである。

委員：VNK（ベトナム人コミュニティ）はコロナの影響や会長の多忙などにより、活動が停滞している。ベトナム人の子ども達への母語（ベトナム語）教室を毎週開催していたが、回数が減っている。VNKの役員も市外に転居する者もいて活動の継続が難しくなっている。ベトナム語の母語教室を継続し、活動が先細りしないように、市役所には支援してもらえると嬉しい。

事務局：小垣江のプロジェクトで、ベトナム人が参加しているので、その方々も巻き込めるとよいと感じている。

委員：小垣江からVNKが活動している国際プラザまで距離が遠いことが懸念される。

事務局：SBK（フィリピン人コミュニティ）は、最初は1人から始まり、現在は50人以上に増えている。VNKは、厳しい状況にあるので、市がリードして、もう一度メンバーを募ってミーティングをすることなどフォローしたいと考えている。

委員：SNSを使って、VNKの存在をもっと知ってもらいたい。

委員長：E S D推進プロジェクトのグローバル人財の講師リストはあるか。

事務局：講師は今のところ留学生が中心で、必要に応じて各機関等へ依頼している状況である。在留期間の関係で日本にいる期間が限られている場合も多く、リスト化するところに至っていない。

委員長：デンソーにも多くの海外経験社員がいる。協力していただけるとよいと思う。

委員：協力できる可能性はあると思うが、どういうタイミングでどういう人財が適任なのか

は、ニーズ把握や調整が必要である。

(2) 第2次刈谷市国際化・多文化共生推進計画策定の方針について

◇事務局が、今年度から2年かけて行う予定の第2次刈谷市国際化・多文化共生推進計画策定の方針について、資料を基に説明を行った（内容は配付資料2のとおり）。

◇上記説明事項について、以下のとおり質疑応答、意見交換を行った。

委員長：第1次計画10年間の活動の実績と成果をまとめる作業になる。今年度と来年度の2年間、委員の皆さんには、この策定作業に関わっていただくことになる。

委員：資料の中で、愛知県のライフステージごとの支援が示されているが、刈谷市でもこの考え方を取り入れる予定か。

事務局：今後、第2次計画を検討する段階で、ライフステージごとの支援の視点を取り入れていく方向で考えてはいる。

委員長：国際化・多文化共生の4つの目的の1つとして示されている「全ての人の人権を守る」だが、公的な問題として考えてみた時、法律が改正され、日本に住んでいる外国人が住民基本台帳に登録されるようになったのが2012年、つまり10年前である。日本人と同じ住民基本台帳に登録するということは、自治体の行政サービスを等しく受け取ることができるということにつながる。誰もが等しく公的サービスを受けることができることも人権を守ることである。地域の特性を活かして外国人市民受け入れの取り組みを自治体ごとに行っているが、こうした歴史的プロセスの中での今があり、全ての人が公平に共通に公的サービスを受けられるという考え方を前提にして、様々な施策を講じることが大切であると意識していきたい。

(3) 刈谷市の外国人市民の状況について

◇事務局が、刈谷市の外国人市民の状況について、資料とスライドを使って説明を行った（内容は配付資料3のとおり）。

◇上記説明事項について、以下のとおり質疑応答、意見交換を行った。

委員長：学校で外国籍児童・生徒が増えている状況で、学校現場での対応はどうしているか。

委員：今後ますます外国籍児童・生徒が増えることは予想している。語学指導員としてブラジル人、フィリピン人、中国人を配置しているが、急増しているベトナム人の語学指導員のニーズを感じている。現状としては、ベトナム人は英語が話せる方も多く、フィリピン人の語学指導員が英語を使いながら対応しているが、今後はベトナム人の語学指導員の配置についても考えていきたい。

委員長：現場ではトラブルは起きていないか。

委員：大きなトラブルはないが、語学指導員への負担（時間的拘束、個別の相談など）が増

えている。

委員：ベトナム人の人数が10年で8倍ぐらい増えて、今後もどんどん増えていくと思う。刈谷幼稚園の園長からはベトナム語の通訳がいなくて困っていると聞いた。また、知り合いのベトナム人で日本語が全くできない人は、病院や市役所に行きたい時は、パートナーが休みの日に一緒に来てもらったり、友だちに頼んだりしているのが現状である。

委員長：市役所では、ベトナム人に対する支援はどのようにしているか。

事務局：くらし安心課で外国人相談をしているが、ベトナム語で対応できる人はいない。刈谷市国際交流協会では日本人向けのベトナム語教室を実施している。

委員：（自分は語学指導員ではないが）途中入学した日本語ができない外国人の子どもへの通訳、親への通訳、配付資料の翻訳などを（無償で）頼まれて、あちこちの学校に行く機会がある。安城市の知り合いからも、そういったことを頼まれている状況である。子どもは修学旅行に行きたいのに、日本語がわからない親が修学旅行の内容がわからず、行かせないというようなことがある。なので、英語とタガログ語については、通訳・翻訳等を知人に頼まれたら役に立ちたいという思いで引き受けている。

委員：豊田市は、小学校からもらう資料はベトナム語に翻訳されている。市役所からもらう資料もベトナム語になっている。

委員長：ベトナム語を含む多言語で公的サービスを提供する必要が急速に高まっていることがわかった。

◇委員がペアになり、外国人市民の状況について、①印象に残ったこと、②各セクターの立場で課題と思うこと、を伝え合い、その結果をペアの代表者が全体に発表、共有した。発表内容は以下のとおり。

委員：ブラジル、フィリピンの人が多いとは感じていたが、ベトナム人が多いことに驚いた。年齢を重ねるにつれて、言葉（日本語）を人に教えるのは難しくなってくる。忙しくて学ぶ機会もなかなか持てない。

委員：父母が日本語を使えない子どもを日本の学校に通わせる難しさを感じた。外国人互助コミュニティで助け合っていることは素晴らしい。多文化共生という言葉を大げさに捉えるのではなく、日々の困り事を一緒に解決し、安心して暮らせるようにするという視点で取り組んではどうかと思った。

委員：愛知教育大学ではベトナム人留学生は少ない。技能実習生のベトナム人が多いことが改めてわかった。生活に困らないようにすることが多文化共生だと思った。

委員：デンソーはグローバル企業で社内では英語がコミュニケーション言語となっている。海外経験がある人材も多くいるので、講師として派遣もできる。永住化が進んでいくので、第2次計画の策定にあたり、外国人市民としてではなく、刈谷市民として意見を聞いていくことが大切ではないか。

委員：楽しい、役に立つ、やりがいという視点が付いてくると計画は持続すると思う。

(4) 各種アンケート調査等の内容について

◇事務局が、各種アンケート調査等の内容について、資料とスライドを使って説明を行った（内容は配付資料4のとおり）。

◇上記説明事項について、以下のとおり質疑応答、意見交換を行った。

委員：刈谷市の特性が浮かび上がるように、アンケートの設計をしているということでしょうか。

事務局：そう分析できるよう設計している。

委員：前回（現計画策定時）のアンケートの回収率はどうだったか。日本人1,000人、外国人1,000人で回収率はどれくらいになるのか気になる。ダイレクトメールが多い昨今、後回しにしてしまう人も多いと思う。何か回答率を上げる工夫はしているか。

事務局：前回の外国人アンケートの回収率は38.7%であった。国籍別だと中国人が約47%と高く、次いでフィリピン人、ブラジル人となっている。

委員：回答したらクーポンがもらえとか、工夫が必要かもしれない。回収率があがるとよい。

事務局：前回とは違いフィリピン人、ベトナム人、ブラジル人コミュニティができていて、直接呼びかけることもできるので、できる限り回収率アップを図っていきたい。

委員長：回収率アップの方策を図れるとよい。

委員：資料4の調査票が、外国人向けに配付する「やさしい日本語版」か。

事務局：資料4は通常の日本語版で、内容が了承されれば、「やさしい日本語」に翻訳する。同時に5つの外国語にも翻訳する。

委員：できるだけ「やさしい日本語」にするようにしてほしい。

委員長：中身が多いので、回答にモチベーションが持てるような工夫ができるとよい。今回は検討時間が少なかったため、アンケートの内容に関しては、委員会終了後でも何かご意見あれば事務局に伝えてほしい。

3. その他について

◇最後に、委員一人ずつ一言感想などを発言した（内容は以下のとおり）。

委員：委員のみなさんの様々な意見は参考になった。よりよいものにしていきたい

委員：初めて参加だったが、みなさんの意見を聞き、勉強になった。

委員：他でもこういう集まりで意見を聞くと、外国人のコミュニティの問題が共通している

ので、取り組んでいきたい。

委員：深く考えることのなかったテーマについて、考えることができた。海外駐在の経験もあり、自分の経験や失敗も含めて、今後もお話できればと思う。

委員：毎日、職場でたくさんの留学生と接しており、行政の方も多文化共生に取り組んでくださっていることを実感した。これから外国人との共存共生の時代が到来するので、みんなで力を合わせて頑張っていこう。

委員：子どもやその保護者の視点でしか外国人を捉えていなかったが、視野を広げて考えることができた。

委員：外国人と仕事をすることも増え、日本語に英語を併記することも増え、国際交流は今後も拡大路線だと思うので、企業も力添えをしてきたい。

委員：委員長の取り回しが上手で、いろんな話をしたり、聞いたりすることができた。他の委員の意見を聞きながら自分の考えも改めて浮かんできたりする。みんなが気軽に意見を出し合うことが大事だと思う。

委員：仕組みを作る事も大事だが、人の意識を変えていくことも大事と感じている。それは大変なことだが、みんなで意見を出し合って、進めていけたら思う。

委員長：「刈谷市の特性を生かす」ことが大切である。全国でも計画を策定する委員会は多くあるが、刈谷市が計画の実践・推進に関しても委員会で検討を10年間ぐらい続けてきたことは特筆すべき特性である。全国で初めて多文化共生のコミュニティガーデンに取り組んだ市であることも特性である。行政が声をかけ、市民を巻き込んでいく重要性がわかるモデルになり得る取り組みである。刈谷市には多様なセクターがあり、それを集約するような多文化共生のプラットフォームを作ることが必要だと考える。そのプラットフォームをベースにして様々なセクターが活動していけるようなシステムを創り上げること、そこがポイントになると考える。

◇事務局から連絡事項を伝え、委員長が閉会した。

事務局：10月末を期限にアンケートに関してのご意見があれば受け付ける。委員会は今年度2回の開催予定で、次回は3月を予定している。詳細は改めて連絡する。

委員長：貴重な意見に感謝する。今後ともお願いしたい。